令和７年度東大阪市地域研究助成金事業
研究成果の今後の活用について

研究テーマ	商店街活性化に向けた効果的手法に関する研究 　―永和駅前商店会を事例として―
担当部署	都市魅力産業スポーツ部　商業課

研究概要	東大阪市内の商店街が直面する課題を踏まえて、その活性化策として交流人口の増加と魅力創出という観点から①周辺集客施設を活用したり、商店街自身が独自に集客イベントを実施する方策、②その実現に際して運営体制として脆弱な商店街が地域住民や大学と連携する方策、③そうしたにぎわいづくりが商店街の空き店舗に与える影響などを調査研究したもの。
研究成果	・大阪商業大学の加藤・中嶋ゼミの大学生、地域の方を含めて永和駅前商店会と共催で、えいしばマルシェを開催し商店街の具体的な活性化策を検討した。商店街における巻き込みとして店舗のチラシ、スタンプラリー等を実施し、あわせて地域住民によるマルシェ出店、地元シニアによる昔遊びなど、地域の団体と連携した賑わいづくりを実施した。 ・永和駅前商店会及びその近辺の街歩きマップを学生が作成し、商店街を含む地域の魅力の発見、地域に対する関心の向上を研究した。 ・先進地事例として、川越一番街商店街、吹田市旭日通商店街、道明寺聖天通り商店街、東京白河清澄のリトルトーキョー、都城市 Mallmall を調査した。集客の仕組や地域の巻き込み方など、商店街の活性化につながる個別の手法を調査した。 ・商店街が多様な住民と地域団体と連携し、共創の成果を実現することができるかどうか、具体的な事例を踏まえて、商店街が担う新たな役割と多様な地域主体(大学を含む地域団体や住民)と共創しうる形態について分析した。 ・商店街の活性化には「単一のイベントや施策」だけでなく、商店街自らが地域資源を主体的に活用し、計画的に連携と魅力度向上を図ることが不可欠であり、持続的な成果を生むために、各商店街が現状把握・ビジョン設定・実行・評価の一連のサイクルを回していくことが重要であるという結論に至る。
今後の活用	・市の商業施策への反映。 ・報告書は、市内全商店街団体の会長に共有を行い、会長には商店街ビジョンの設定を促す。 ・改定予定の商業活性化方針への反映。 ・商店街活性化のステップを商店街で実践できるような支援策を検討する。